

指定校番号	29038	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	中学校用
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	田 浦 由紀夫	生徒指導主事	京 谷 隆 宏
-----	-------------	----	---------	--------	---------

<b>取組事例名</b>	『命の大切さを考える日』
<b>取組のねらい</b>	『キーワード いじめの未然防止』
<p>この取組を行うことにより、生徒間トラブルの抑止となる啓発活動とする。また、これらの取組により、社会性の構築につなげ、より良い人間関係づくりの基盤となるものを育成する。</p>	
<b>身に付けさせたい資質・能力</b>	<p>生徒自らが、人を思いやり行動できる気持ちになり、人を大切に思い接することのできる態度を育てたい。そのために、相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりした自身の言動に気づかせ、改善させていく取組を行っていく。</p>
<b>取組の具体的内容</b>	『キーワード 心に訴える』
<p>全校集会で「いじめ撲滅宣言」「人権作文の朗読」「生徒会執行部からのメッセージ」により、いじめがいかにか人の心と体を傷つけるか、生徒会執行部自身の辛い思いをした経験等を訴え、相手の立場になっての関わりを伝えた。</p>	
	
<p>その後、学級でクラススローガンを決定し、そのスローガンをもとに学級旗を作成</p>	
	
<p>後日、集会で発表（発表後、一年間教室に掲示）</p>	
<b>取組の課題・創意工夫</b>	『キーワード 各取組をつなげる』
<p>1 学期末に自分の言動を振り返らせ、「いじめ」に関しての自己評価を行った。自身の振り返りでは、大変前向きな回答をしている生徒が多く、友達との関係性について失言を繰り返す友人に対してのサポートに関連するものが数多く書かれていた。しかし、一部の生徒の中に、人に対しての誹謗中傷があったり、そのことで辛い思いをしている生徒もいる。</p>	

## 取組の成果（効果）『キーワード 生徒会執行部からの発信』

2学期に入って生徒会執行部から提案があり「いじめ防止」に向けて『平和集会』を行った。



「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの同級生（語り部）

5月の「命の大切さを考える集会」から定期的に行われた取組により、生徒自身の中に、友人関係の構築といった社会性が培われてきた。継続的に訴えることにより、生徒が行動を振り返りやすくなった。また、全体での取組をうけて、各学級や学年で取組の「つながり」も見られるようになってきた。

## 今後の展開『キーワード 自分たちが今後できること』

5月の「命の大切さを考える集会」から「1学期の振り返り」 10月には「平和集会」、12月には「いじめ防止について考える集会」といったように『いじめ防止』をテーマに生徒会執行部を中心に取組をつなげてきた。また、年に3回のいじめに関するアンケートも実施している。次回のアンケート等も踏まえ、今年度取り組んできた内容を自分の生活に置き換えさせ実践できる生徒を育てていきたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 生徒会執行部の育成』

生徒会の執行部を育てることによって、生徒会が学校のリーダーとして活躍し、さまざまな事項に対して推進していくことができました。生徒会担当者が執行部の意見をうまく吸い上げアレンジしながら独自のものを作り上げていくといった循環が、本校生徒会執行部のスキルアップに大きく役立っています。